

感染症情報 12月26日～1月8日

12月26日から1月1日分

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1527例(堺市	93例)
②溶連菌感染症	257例(堺市	8例)
③RSウイルス感染症	193例(堺市	5例)
④おたふくかぜ	189例(堺市	8例)
⑤みずぼうそう	103例(堺市	5例)

府下インフルエンザ定点308医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 1735例(堺市 115例)

1月2日から1月8日分

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	749例(堺市	102例)
②おたふくかぜ	244例(堺市	17例)
③溶連菌感染症	159例(堺市	8例)
④RSウイルス感染症	150例(堺市	3例)
⑤みずぼうそう	110例(堺市	8例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 2385例(堺市 200例)

が報告された。年末年始で報告定点の診療実日数が少なく、通常週との比較はできない。

感染症報告数は12月26日から1月1日までがその前週より46%減の2,511件で、1月2日から8日までがさらに37%減の1,594件であった。

インフルエンザは府下では12月26日から1月1日までがその前週より13%増の1,735例が報告され(堺市では80→115例の44%増)、1月2日から8日までがさらに37%増の2,385例になった(堺市で115→200例、74%増)。報告定点あたり7.8となった。大阪市西部と大阪市北部では注意報レベルを越えている。

麻疹、風疹の報告はなかった。